

サクラソウさがし新聞

発行：軽井沢サクラソウ会議事務局
住所：長野県北佐久郡軽井沢町発地 1184-85
E-mail：info@sakuraso.org



サクラソウ、みつけた！

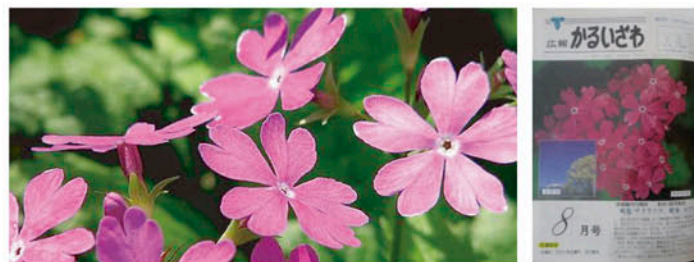
軽井沢町のどんなどころにどのくらい自生のサクラソウがあるのか、自分たちで調べてみよう、と、2015年（2016年追加）の5月に軽井沢サクラソウ会議が調査しました。その結果をお知らせします。

軽井沢町のサクラソウ

かつて地蔵ヶ原をはじめとして町内に数多く自生していたサクラソウですが、（昭和31年5月20日の毎日新聞）ゴルフ場や別荘地等の開発や宅地造成等の影響で、生育地及び生育数は激減してしまいました。また平成5年に「町花」に指定されましたが、生育数などの実態調査は実施されていませんでした。

サクラソウ調査をしています

サクラソウの生きている生態系や、軽井沢町の生物多様性を保全しようと、2000年に「軽井沢サクラソウ会議」が創られました。設立当初から、サクラソウの生育地の調査をしてきましたが、2010年からは町全域に範囲を広げた調査を、5年に1回することに決めました。



調査のやりかた

5月の1ヶ月間のサクラソウ開花時期に、生育位置・開花柄数・周辺の様子を1か所1枚の記録用紙に記録する方法で行ないました。300ヶ以上花が咲いている優良生育地、10～300ヶの生育地、10ヶ以下しか咲いていない生育地と3つにランク分けしました。ピンク色のサクラソウは大変目立つので、だれでも間違いなく簡単に調べられる方法です。今回は28人（延べ73人）が調査に参加しました。

第64回日本生態学会に参加

今年3月、ポスター発表で「市民調査によるサクラソウ分布調査を活用した生育適地の推定」と、自由集会「草原再生における現状と課題」に参加し、発表・発言してきました。会場の早稲田大学は広かった！

調査してわかったこと

この結果、町内265地点でサクラソウの生育が確認されました。これは1つの町にある生育地数としては、ずば抜けている「豊かさ」と思われます。そのうち、1ヶ所に300ヶ以上花が咲いていた優良生育地は、40ヶ所以上、逆に10ヶ以下しか咲いていない場所が約70ヶ所もあり、生育地の減少が心配です。生育地は、町南部の草原・湿地だった場所に多く分布していました。また、1970年代ごろまでに分譲された古い別荘地でも、多数が確認されました。



研究者もしらべてくれました

2015年調査では、サクラソウの生育地を地図上に記録し、研究者と協力しサクラソウの生育が、地質、土壌、歴史的な土地利用と関連があるかないかを調べました。これによると、サクラソウの生育地は、かつて黒斑山の山体崩壊によってせき止められ一時的に湖水になった地質のある場所、黒ボク土（近年、火入れ、半自然草原との関連が指摘されている）やグライ土（水浸しで還元状態の土壌）の土壌のある場所に多く分布していることが分かりました。土地利用との関連は、地質や土壌ほど強くありませんでした。この解析によって、サクラソウの生育に適している場所をいくつか推定できたので、この春はこの推定が正しいかどうかを、追加して調べる予定です。

軽井沢サクラソウ会議

設立2000年2月。目的は、町花サクラソウの保全と町の生物多様性をより豊かにして次世代に引き継ぐこと。キャッチフレーズは、「サクラソウの咲き続ける町に！」
会員数：84名（2017年1月現在）代表 須永久 会費（年1,500円）
詳しくは、軽井沢サクラソウ会議 HP をご覧ください。http://www.sakuraso.org/



サクラソウ一口メモ
サクラソウは、2つのやり方で増える。一つは地下茎で、もう一つは種子で。遺伝子が多様になるには、種子が増えることが大切。それには花粉をはこんでくれる昆虫トラマルハナバチが元気なことが必要です。



- 八 手前味噌プロジェクト（無農薬で大豆から味噌づくり）
- 七 『もう一度見たい！軽井沢の草原・湿原』『講演記録集』『軽井沢町の土地利用図の変遷』『軽井沢ふるさと探検隊すころく』『リーフレット』
- 六 シンポジウム「自然観察会の開催を通して軽井沢独特の自然環境・生態系の啓蒙普及本や資料の発行
- 五 環境省「モニタリング1000里地調査」（塩沢地区里山の植物調査）
- 四 シンポジウム「自然観察会の開催を通して軽井沢独特の自然環境・生態系の啓蒙普及本や資料の発行
- 三 外来植物の発見と駆除（軽井沢町生活環境課の施策と連携）
- 二 「半自然草原」再生実験 国有林内2か所で、草刈り。植生変化を調査
- 一 サクラソウ生育地調査

（ハヤツていること）



サクラソウのなぞ

町の南半分にはサクラソウが多そうです。どうしてでしょう？

軽井沢のサクラソウは、春先に樹木が葉を広げる前に陽が当たり、夏には涼しくなる落葉広葉樹の下などで湿り気のあるところが好きです。北側の国有林では、木が大きく陽当たりが悪くなってサクラソウの生育にはあまりよくありません。あるいは、かつての浅間山の噴火で流れ出た噴出物で、表土が厚く埋もれてしまって、サクラソウの種子が発芽できなくなってしまったのかもしれませんが。逆に、南軽井沢にはたくさんの湿地があり、軽井沢の人々が永い間馬や牛の餌をとるために草刈りを続けていた「半自然草原」が広がっていました（大正元年の国土地理院地形図で23%の面積）。そんな草原や湿原にはたくさんのサクラソウが咲き乱れていました。国の天然記念物に指定してもらおうと元軽井沢植物園長佐藤邦雄さんが願っていたほどでした（(表の毎日新聞記事をご覧ください)）。今でも、南軽井沢にはサクラソウの花粉を運んでくれるトラマルハナバチが元気に活動できるような花々が春から秋までたくさん咲いています。こんな環境があるからこそ、サクラソウがたくさん咲くのですね。

いくつかの別荘地にサクラソウがたくさんあります。どうしてでしょう？

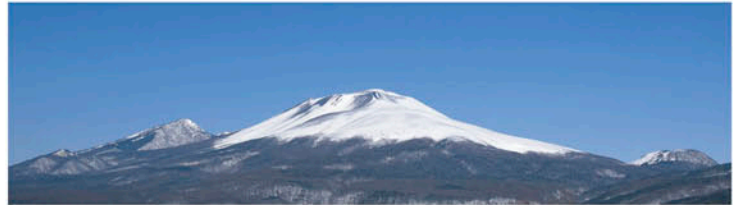
昭和40年ごろまでに造成された古い別荘地は、表土をあまりいじらずに分譲されていました。そのような土地で間伐をして日当たりが良くなると、窪地にサクラソウが元気に咲き出すことがあります。そんなサクラソウを見つけると嬉しくなりますね。そっと大切に见守って、土地の持ち主に「軽井沢の宝物がありましたよ。」と教えてあげてください。そんな場所にはサクラソウ以外にも、大切な植物の種子が眠っているかも知れませんよ。



日本の三大自生地

火山の噴火でできた草原や、せき止められて水はけが悪くなった湿地は、陽当たりや水分を好むサクラソウにとっては条件が良く、増えたと考えられます。他にも、岩手県の岩手山、八ヶ岳などの火山の山麓にも、大きなサクラソウの自生地があります。

人間が植えたのではなく、永い、ながい地球の歴史の中で、自然環境に適応して生きてきた植物や動物を大切に守り育てることができるといいですね、軽井沢町にしていきたいですね。



なぜ、軽井沢のサクラソウと埼玉県のサクラソウが似た遺伝子をもっているのでしょうか？

研究者が日本全国のサクラソウの遺伝子を調べた結果、軽井沢と埼玉県田島ヶ原のサクラソウ（国の天然記念物）とは、同じタイプの遺伝子を持っているということが分かりました。浅間山から西に連なる火山は、100万年ほど前から活動を始めました。そのころは碓氷峠も妙義山も今のように険しくなく、軽井沢一帯は関東にむかってなだらかに傾斜する平らな大地だったそうです。軽井沢を流れる川は千曲川に合流し日本海へ流れていきますが、そのころは、軽井沢の川は関東平野へ向かって流れていたようです。このため、軽井沢のサクラソウと埼玉県のサクラソウの遺伝子のルートが同じなのではないかと考えられています。また、軽井沢のサクラソウには、他の地域と比べて、いろいろな遺伝子のタイプが含まれていることがわかりました。軽井沢では、サクラソウの生育にとって良い環境が永い間保たれてきたことを表しています。

そこにあつたはずの花が無い！！

散歩の途中でピンクのつぼみをつけていたサクラソウを見つけて、咲くのを楽しみにしていたのに、ある日、そこにあつたはずの花が無い！
そんな経験をしたことがあります。
花は、そこに咲いているからこそ幸せです。美しいのです。
もし、自生しているかわいいサクラソウを見つけたら、そっと見守って下さいね。
あなたの子供や、孫たちにも、自然の中でサクラソウを見つかる楽しみを残しておきましょう。